

分科会・分散会の概要 1

第1分科会 校長の職責

【研究課題】 先人の知恵を生かした活力ある学校づくり

【研究の視点①】 地域の教育資源を生かし、子どもの活力を生み出す学校経営の推進

<研究発表> 地域力を生かし、地域に根ざした組織的な学校運営の推進

愛知県 一宮市立西成小学校 棚瀬 泰士

<発表概要>

愛知県は、愛知県教育振興基本計画として「あいちの教育に関するアクションプランⅡ」を策定し、平成23年度から平成27年度までの5年間の計画を指針した。その基本理念をもとに一宮市教育委員会は一宮市学校教育推進プランを策定するとともに、平成24年度一宮市学校教育基本方針を定めた。そこに定めた重点目標を具現化するために、学校オリジナルの学校教育推進プラン実施計画を作成した。この学校オリジナルの学校教育推進プラン実施計画を具現化するために、地域力を生かし、地域に根ざした組織的な学校運営の推進として、

- (1) 学校オリジナルの学校教育推進プラン実施計画の取組
 - (2) コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の推進
 - (3) 連区の地域づくり協議会との連携
- の実践を研究主題の柱とし、取り組んだ。

【研究の視点②】 明確なビジョンを掲げ、教員の意欲を引き出す学校経営の推進

<研究発表> 「誠意」を柱とする、教育創造プログラムの実現

— 一人一人が輝くために —

兵庫県 姫路市立飾磨小学校 山田 浩三

<発表概要>

校長は、学校組織の長としての責務と学校に存する教職員や児童・保護者、そして地域社会の信頼に応え、風通しのよい開かれた学校づくりに専念しなければならない。そのために、姫路市小学校長会は、本市が提唱する『ふるさと・ひめじプラン2020』の中の、「生きがいと魅力ある 住みよい都市 姫路」からなる『魅力ある姫路の教育創造プログラム』の実現に向け、“はぐくもう子どもの夢、高めあおう姫路の教育”を目指し、明確なビジョンを示しながら活力にあふれた学校経営について研究を深めてきた。

- ① 姫路市の教育基本方針の具現化
- ② 保幼小の連携と小中一貫教育の推進
- ③ 学校経営の主軸として セキュリティー アカウンタビリティー マネジメント
- ④ 学校経営の中心におく「特別支援教育」
- ⑤ 先人から学ぶ学校経営

分科会・分散会の概要 2

第2分科会 組織・運営

【研究課題】 組織の力が生きる学校づくり

【研究の視点①】 子どもと向き合う時間を確保する学校運営の工夫と改善

＜研究発表＞ 子どもも教職員も輝く学校づくりを目指す校長の在り方

— 学級担任が子どもと質の高い向き合いをするための組織・運営 —

徳島県 徳島市助任小学校 長井 明福

＜発表概要＞

学校や教員の多忙化が問題視されて、久しい。特に、学級担任の多忙感と疲労感が蔓延している。教員の多忙感を皆無にすることはできないが、軽減していき、子どもたちと向き合う時間を確保しつつ、その質を高めていくことが、今、求められている。

教員の多忙感が、教員のモチベーションを低下させ、教育活動の不十分さをもたらし、学校力を損なうという「負のスパイラル」に陥る要因の一つとなる。そこに楔を打ち込み、「正のスパイラル」に転換させ、組織としての学校を活性化させていくために、校長としてリーダーシップを発揮していかねばならない。そして、子どもたちも、教職員も輝く存在となるような学校づくりを求め、具体的に取り組む校長の在り方を模索したいと考えた。

①教職員の意識改革と協働体制—教職員にブレとムダをなくし、学校の組織力向上を—

②協働的組織の構築と精選化・機能化・能率化—子どもと向き合う時間確保を—

③校内外からの支援確保—学級担任だけでなく、様々な支援をいただいて—

④子どもと向き合う中身の充実—授業を通して中身をさらに深めて—

【研究の視点②】 今日的な諸課題への対応力を高める学校運営の組織改善と推進

＜研究発表＞ 子どもたち一人一人に居場所のある学校づくりを

— 子どもの学び、教職員の組織力を高める取組 —

大阪府 交野市立私市小学校 勢木 俊二

＜発表概要＞

子どもたちに対して学校教育が十分機能していくためには、校長の確かなリーダーシップのもと、全教職員が 学校経営の進むべき道をしっかり共通理解し、自校の課題を共有するとともに、教職員一人一人が自ら持っている能力や特性を十分発揮できる環境がぜひ必要であり、個々の教職員が個人プレーを脱却してチームプレーができるよう組織力を高めていくことが今求められている。

また、そこで学ぶ子どもたち一人一人が、学びがいがあり生き生きと学校生活を送ることが大切である。なにより、学校生活を送るうえで基盤になる各学級が一人一人の子どもたちにとって心地よく居場所のある所でなければならない。さらに、子どもたちの教育に関わる全ての教職員にとってもやりがいのある場所ではないと考える。

この発表は前任校での取組をもとにしている。

① 組織化と連携

② 学力向上の取組

③ 小・中学校の連携

④ 保護者、地域との連携・啓発

分科会・分散会の概要 3

第3分科会 人事評価・学校評価

【研究課題】 人事評価・学校評価を生かした学校づくり

【研究の視点①】 人事評価を生かした信頼される学校づくり

＜研究発表＞ 教職員の資質向上を図り、信頼される学校づくりを目指す校長の在り方
—教職員の意欲を高め、学校を活性化させる人事評価制度の活用—
青森県 五所川原市立松島小学校 川添 章弘

＜発表概要＞

保護者・地域から信頼される学校教育の成否は、教職員の資質・能力に負うところが極めて大きい。自校で教職員を育てることが、校長の責務でもある。そのために、青森県北五校長会は、人事評価制度を活用して、教職員と適切なコミュニケーションをとり、意欲を向上させ経営参画意識を高めながら、学校組織を活性化させるための方策について研究を進め、これからの学校経営の充実に資することを目的としてきた。

- ①青森県における「教職員の人材育成・評価制度」の概要
- ②「教職員の人材育成・評価制度」に係るアンケートのまとめ
- ③人事評価制度を活用して職員の資質向上を図り、学校を活性化させる校長の在り方

【研究の視点②】 学校評価を生かした開かれた学校づくりの推進

＜研究発表＞ 学校評価を生かした開かれた学校づくり
～学校評価・情報提供の充実・改善のための実践から～
京都府 伊根町立本庄小学校 千賀 諭

＜発表概要＞

学校関係者評価委員会を中心に、委員の学校教育に関する理解を深めたり、多様な意見や提言をいただいたり、学校評価（自己評価）をより客観的に検証し、子どもの夢や希望の実現を目指す魅力ある学校づくりについて研究を進め、これからの学校経営の充実に資することを目的とした。

- ① 学校評価システムについて
- ② 学校関係者評価について
- ③ 自己評価を補完する各種アンケートについて
- ④ 地域に開かれた学校づくりについて
- ⑤ 教職員のモチベーションをあげるために

分科会・分散会の概要 4

第4分科会 第1分散会 教育課程 I

【研究課題】 豊かな心を育む学校づくり

【研究の視点①】 身近な地域の人との関わりを大切にし、規範意識を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

<研究発表> 体験活動を生かした心の教育

山口県 防府市立牟礼小学校 和田 康夫

<発表概要>

規範意識を高めることは、人間関係づくりが基盤にあるという視点を持ち、「心の教育」というフィルターを通して、教科指導や道徳の時間、特別活動などを見直し、教職員もその意識が持てるように試みた。さらに、地域の人的資源を活用した教育課程を編成するためには、地域の人材が教育効果を持てるようなアプローチも校長の果たす大きな役割ととらえ、実践を試みた。

そこで、児童の実態及び各学校の地域の人材等の実態を踏まえ、次の視点をもって本研究主題に迫ることとした。

①地域の人材を生かすためには

②地域の人材が教育的な効果を発揮できるようにするためには

③学校や教員が、子どもの豊かな心を育むためには

心の教育を基盤にすることは、各校の道徳性を高め、児童が安心して学べる学校づくりにつながる。校長として、学校の教育活動が、保護者や地域住民にも見えるようにしていくために、

【研究の視点②】 道徳的実践力を高め、豊かな心の育成を目指した教育課程の編成・実施・評価・改善

<研究発表> 一人一人の道徳性を高める学校づくり

大阪府 貝塚市立東山小学校 深井 利恵子

<発表概要>

社会のモラルや家庭の教育力の低下、人間関係の希薄さが懸念される中、子どもたちに、自律的な実践力や他者との協調性、豊かな人間性などを育むことが、学校に求められている。

そのために、貝塚市小学校長会は、道徳の時間と体験活動等の関連を重視した教育課程や、全教育活動における心の教育の一層の充実に取り組んできた。

① 校長の方針の明示と全教職員の参画による道徳教育の推進

② 道徳的習慣の定着を目指した全教育活動における道徳教育の推進

③ アンケートや年間計画進行管理表を活用した道徳教育の推進

分科会・分散会の概要 5

第4分科会 第2分散会 教育課程Ⅱ

【研究課題】 確かな学力の向上を目指す学校づくり

【研究の視点①】 基礎的・基本的な知識や技能の確実な習得を図り、課題解決に必要な 思

考力・判断力・表現力を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

<研究発表> 習得と活用する力を育成を目指した教育課程への校長の関わり方と役割

—教育課程上の課題を明確にした校長会と各校の取り組みを通して—

茨城県 鹿嶋市立平井小学校 横田 英一

<発表概要>

校長は学校経営のビジョンを明確に示し、教育課程の編成・実施・評価・改善のサイクルを確立させ、確かな学力の向上を目指す学校づくりを推進していかなければならない。その際、校長は、教育課程にどのように関わり、どんな役割や指導性を発揮していけばよいのかを、意識調査結果等からの課題を中心に、校長会や各学校の下記のような取り組みから究明していく。

- ① 学校経営のビジョンを共有する組織づくり
- ② 検証改善サイクルの確立により学力向上を図る
- ③ 教育課程の編成と実施の改善を図る
- ④ 長期休業日の学習指導
- ⑤ 人的活用の工夫
- ⑥ 校内組織、プロジェクトを機能させる
- ⑦ 小中連携による学力向上対策

【研究の視点②】 学ぶ意欲を高め、主体的に学習に取り組む態度を育む学習指導と評価の在り方

<研究発表> 学力向上を目指す竜西モデルの実践と特色ある教育課程編成の工夫改善

滋賀県 竜王町立竜王西小学校 吉田 諭

<発表概要>

校長は、自校の教育環境・教育課題を迅速に、且つ的確に把握し、ビジョンを提示し、教職員を動かし具体的の方策を持って、夢や希望にあふれた子どもたちを育てるのが使命である。古くから滋賀の人々が拠り所としてきた「近江（淡海）の心」を大切にし、先人の精神に学ばなければならない。一人一人に確かな学力をつけ、生きる力を育むために、

- * 本好きな子どもを育てる「竜西ほんわか大作戦」の展開
- * 学習の土台となる学級づくり（SGE・PAの活用）と教育課程の編成
- * 校内組織づくりの工夫
- * 職員の意識改革と資質の向上

分科会・分散会の概要 6

第5分科会 現職教育

【研究課題】 教職員の資質・能力を高める学校づくり

【研究の視点①】 教職員の意識改革を促し、実践的な指導力を高める校内研修体制の充実
＜研究発表＞ 教職員の専門性を高め、指導力の向上を図る学校研修体制の構築
—公開研究会開催を生かし、内外に開かれた校内研修への取り組み—
北海道 砂川市立空知太小学校 広川 隆一

＜発表概要＞

「教育は人なり」と言われ、子どもたちを直接指導する教職員の意識の変容や指導力の向上が、即、教育の改善・改革に直結する。そういう意味で、現職教育＝教職員の資質・能力の育成向上こそが教育改革そのものであり、その成否を左右する。

空知校長会(砂川市校長会)では、このような認識のもと、北海道の状況をふまえつつ

- ①教職員の意識改革と服務規律の徹底を図る校内研修の推進
- ②教職員一人一人の専門性を高め、指導力の向上を図る校内研修の充実

を柱として、実効ある現職教育を実現するための研究に取り組んだ。

また、公開研究会の開催を生かし、内外に開かれた校内研修への取り組みを工夫しつつ、校長の果たすべき役割と指導性について実践・検証することとした。

【研究の視点②】 教職員に自信と誇りを育み、展望や参画意識を持たせる研修の推進

＜研究発表＞ 外を知り、外に開き、組織で動く学校づくり
和歌山県 九度山町立九度山小学校長 喜多 秀行

＜発表概要＞

教職員に自信と誇りを育み、展望や参画意識を持たせる上で研修の役割は大きい。年度当初、校長自ら学校経営方針や研究組織、研修計画等を図表などで作成し、連携・協働して組織として動く体制を提示している。また、学力テストや児童の意識調査等を用いて、研修の成果を分析するための資料を作成している。このように、研修の入口と出口を校長自らが管理することにより、職員が同じ目標に向かって、それぞれの役割を果たせる学校づくりを模索している。

- ① 組織で動く学校づくりの工夫
- ② 展望と参画意識を持たせる組織づくりの工夫
- ③ 授業改善の取組の工夫
- ④ 自信とやりがいを持たせる評価の工夫

分科会・分散会の概要 7

第6分科会 生徒指導

【研究課題】 豊かな人間関係を築く学校づくり

【研究の視点①】 児童理解を深め、豊かな人間関係の育成を図る生徒指導の推進

＜研究発表＞ 互いを認め合い、助け合う人間関係を培う生徒指導の推進

～学校・地域・小中連携の取組から～

佐賀県 佐賀市立巨勢小学校 中村 敏智

＜発表概要＞

豊かな人間関係を築く学校づくりを考えた時、学校においては、子どもたちが互いに関わりあう中で、教師が子ども一人一人が置かれた状況や心の内面を深く理解しながら相手の身になって考え、互いに認め合い、支え合いながら、生きる力を高めていけるような人間関係を築くことが大切であると考えます。そのために、深い子ども理解と教師の子どもの信頼関係のもと、豊かな人間関係の育成を図る生徒指導の推進における、校長の役割とリーダーシップの在り方を究明したい。

- ① Q-Uテストを活用した居心地の良い学級づくり
- ② 地域連携による取組
- ③ 小中連携による挨拶運動
- ④ 児童生徒の安心できる環境づくり

【研究の視点②】 家庭・地域・関係機関と連携した生徒指導の推進

＜研究発表＞ 人権感覚あふれる学校づくり

一人と自然とのぬくもりあるふれあいを通して

大阪府 大阪市立榎本小学校 勝本 孝夫

＜発表概要＞

教育活動の創造には、教職員の人権感覚の高まり、深まりが不可欠であり、学校経営の推進には、人権教育が根幹である。子どもの豊かな人間関係を築く学校づくりのためには、教職員の人権感覚を高めることから始めるとともに、家庭・地域・関係機関と連携を図る必要がある。本校の特色をふまえて、以下の5つの視点で「人権感覚あふれる学校づくり」をめざして取り組んだ。

- ① 榎本小のシンボル「えのもとの森」
- ② 校長としての3年計画
- ③ 校長としてビジョンを示す
- ④ 人とのふれあいを深める取組
- ⑤ 自然とのふれあいを深める取組

分科会・分散会の概要 8

第7分科会 人権教育

【研究課題】 人権を大切にし、互いに尊重し合う心を育む学校づくり

【研究の視点①】 自他の人権を尊重し、自律と思いやりの心を育む教育の推進

＜研究発表＞ 人権尊重の精神をもとにして、豊かな心情を持ち、認め合い、助け合い、共に伸びようとする子どもの育成

鹿児島県 南九州市立川辺小学校 大藺 一法

＜発表概要＞

人権教育の大切さや人権教育を全教育活動の中で、推進していくことは理解されてはいるが、十分な取組や満足する結果まで至っていないのが現状である。人権意識や人権感覚に欠けた児童の言動や行動、指導する側の児童への接し方、心構え等の課題もある。

このような現状を踏まえ、人権尊重の精神を基盤に自他の人権を尊重し、自律と思いやりの心を育む教育をこれまで以上に推進していく必要がある。

そこで、人権尊重の精神をもとにして、豊かな心情を持ち、認め合い、助け合い、共に伸びようとする子どもの育成のため、下記の3つの視点から研究を進め、これからの学校経営の充実に資することを目的とする。

- ① 推進体制の確立
- ② 教職員の人権意識の高揚と資質向上
- ③ 家庭、地域、関係機関との連携

【研究の視点②】 人権意識を高め、実践力を培う人権教育の推進

＜研究発表＞ 人をつなぐ、人とつながる

— 一人一人が大切にされる学校づくり —

和歌山県 那智勝浦町立下里小学校 林 眞一

＜発表概要＞

人権及び人権問題への理解を深め、人権が尊重される社会を築く力を身につけることを目指す教育の推進と校長の役割。現存する人権・同和問題や今日的な人権課題への対応。一人一人が大切にされる教育活動と、東日本大震災・台風12号災害を受けとめた「災害と人権」を核にした人権教育の推進。

- ① 那智勝浦町における人権教育の歩みと実践
- ② 話し合い活動の質的高まりを目指した授業づくり
- ③ 体験的な活動と地域連携
- ④ 「災害と人権」に関わる授業づくりと「防災カリキュラム」の実践

分科会・分散会の概要 9

第8分科会 健康教育

【研究課題】 健やかでたくましい心と体を育む学校づくり

【研究の視点①】 心身ともに健やかな成長を目指す健康教育の推進

＜研究発表＞

宇都宮市「元気アップ教育」を推進する校長の学校経営

～「小中一貫教育と地域学校園」制度における健康教育の実践～

栃木県 宇都宮市立姿川中央小学校 梁木 誠

＜発表概要＞

体力は人間の活動の源であるとともに、健康の維持のほか意欲や気力といった精神面の充実にも大きく関わっており、「生きる力」の重要な要素であるといえる。しかしながら、現在の子どもたちの状況をみると体力・運動能力の低下に加え欠食・偏食・肥満などの傾向が強くみられ、生活習慣の改善も含めて健康・体力面の向上が喫緊の課題となっている。こうしたことから宇都宮市では、学校教育推進計画の施策の柱の一つとして「健康を大切にし、元気に生活できる態度の育成」を位置づけ、全小・中学校が共通して取り組む健康教育推進計画として「元気アップ教育」を策定した。今回の研究は、この「元気アップ教育」を推進するために、近年宇都宮市独自の政策として導入された「小中一貫教育と地域学校園」制度をいかに効果的に活用していくかを考察するものである。

- ① 地域学校園における指導方針・設定目標等の明確化
- ② 小・中間の連携・交流による教職員の意識の高揚
- ③ 学校経営における基軸と特色づくり

【研究の視点②】 望ましい食習慣・生活習慣の形成を目指す食育の推進

＜研究発表＞

生きる力を育む食育の推進と校長の役割や指導性について

滋賀県 竜王町立竜王小学校

甲津 和寿

＜発表概要＞

校長が自ら「食育の重要性」を意識し、「生きる力を育む食育」を推進していくためには、どのような取組が大切であるかを明らかにすると共に、それぞれの取組に当たって、校長の果たすべき役割や指導性とは何かを探ることを目的として本研究の主題を設定した。研究は、現在取り組んでいる学校及び家庭、地域が連携した食育の取組を「食に関する指導目標」を視点として整理し、「生きる力を育む食育」の推進方策を見出すこととした。また、市内小学校長会で食育推進に当たっての校長の役割や指導性を情報交換したり、議論したりしながら、各校が実践を通じて「校長としての食育に関わるよりよい役割や指導性」を見出すこととした。以下の4点を視点として、「生きる力を育む食育の推進方策」と「校長の果たすべき役割や指導性」をまとめた。

- ① 「食事の重要性」を視点として
- ② 「心身の健康と食品を選択する能力」を視点として
- ③ 「感謝の心と食文化」を視点として
- ④ 「社会性」を視点として

分科会・分散会の概要 10

第9分科会 環境教育

【研究課題】 環境に対する豊かな感性と実践力を育む学校づくり

【研究の視点①】 教科・領域等との関連を図った環境教育の推進

＜研究発表＞ 感性豊かに、ふるさとはたらきかける子どもを育てる環境教育と校長の在り方

～地域特性と教科・領域等との関連を深めて～

北海道 今金町立今金小学校 中山 秀悦

＜発表概要＞

環境教育を進める上で、次代を担う子どもたちに必要なことは、その感性を磨き、自分たちのふるさとの環境にはたらきかける意欲を付けることである。今、時代のキーワードはESD＝持続可能な開発のための教育である。その推進のためには、子どもたちが自然と向き合い、自分たちのできるすべを考え、「環境保全」へと向かう主体的な態度を育てる教育・学校経営を充実させることが重要である。

檜山校長会では、●学校全体で取り組む環境教育の推進及び学校の指導体制の構築に関わる校長の果たすべき役割と指導性、●家庭・地域・関係団体との連携を図った環境教育の実践の充実に関わる校長の果たすべき役割と指導性の2点について研究を進めてきた。

- ① 檜山管内における環境教育の実態と研究のねらい
- ② 教育課程編成における校長の指導性
- ③ 実践的な教育活動における指導性

【研究の視点②】 地域環境を生かした活動を通して実践的な態度を育む環境教育の推進

＜研究発表＞ 環境を生かした活動を通して実践的な態度を育む環境教育

－壁面緑化の教材化と環境教育－

大阪府 大阪市立大成小学校 浅井 弘

＜発表概要＞

地球温暖化をはじめ、さまざまな環境問題が深刻化する中で、環境教育の重要性がますます高まっている。学校での環境教育は、学年の発達段階に応じた指導が重要であり、家庭・地域と連携した実践が期待される。大阪市立今福小学校の実践を通して今後の課題について検討する。

- 1 児童が安全で健康に過ごせる学校環境づくり
- 2 壁面緑化の教材化を通して
- 3 保護者・地域と連携した環境教育

分科会・分散会の概要 11

第 10 分科会 家庭・地域・異校種等との連携

【研究課題】 家庭・地域・異校種との連携を生かした学校づくり

【研究の視点①】 学校と家庭・地域との相互理解を深める連携活動の推進

＜研究発表＞ 家庭・地域との横の連携を円滑にし、開かれた学校経営を推進する校長の在り方

～校内マネジメントと双方向性の確保～

青森県 五戸町立豊間内小学校 木村 明彦

＜発表概要＞

青森県では教育施策方針として「新しい時代を主体的に切り拓く人づくり」を目指し、学校においては「縦の連携」と「横の連携」を主軸とした取組を進めている。近年、家庭や地域から学校に対して「地域の教育施設」としての要望や期待が寄せられるようになり、これまでの「一方向的な」連携ではなく互恵的な連携の在り方が求められるようになった。そこで、三戸郡校長会では「連携の双方向性」に焦点を当て、その構築や確保における校長の役割と指導性について研究することになった。

- ①連携状況調査の結果と考察
- ②PDCAサイクルと連携
- ③ボランティア活動における校長のリーダーシップ
- ④双方向性を確保するための校長の役割と求められる力

【研究の視点②】 保・幼、中学校との連携を生かした教育活動の推進

＜研究発表＞ 幼稚園から中学、高校まで連携した教育活動を推進するために
—人口減の過疎地での取組—

兵庫県 宍粟市立千種小学校 家納 孝之

＜発表概要＞

本校は全校児童 143 名のへき地小規模校である。

少子化の波をうけ、3つの小学校が2段階の統合を経て今年の春に開校した。校区は広く、遠距離の子どもたちは2台のスクールバスで通学している。今後も子どもたちは減り続け、6年後には約90名あまりの小学校になると予測されている。

そういう中で幼稚園から高校までの垣根を取り払い、連携して子どもたちを見守ろうということで千種の幼小連携・小中一貫教育・連携型中高一貫教育がはじまった。また並行して学校運営協議会制度を導入し、地域の意見を様々な形で取り入れ、連携一貫教育についての理解を深める取組を行った。

小1プロブレム、中1ギャップ、不登校問題は改善され、連携型中高一貫教育の成功により、これらの取組は地域にも根付きつつある。

分科会・分散会の概要 12

特別分科会 第1分散会 教育課題 I

【研究課題】 自他の文化を尊重し、コミュニケーション能力や情報活用能力を高める学校づくり

【研究の視点①】 豊かな表現力やコミュニケーション能力を育む外国語活動の推進

＜研究発表＞ 外国語活動をより一層充実させるための校長の役割

ーカリキュラムマネジメントの推進と小中連携を通してー

広島県 廿日市市立地御前小学校 日野 恵子

＜発表概要＞

社会や経済のグローバル化が急速に進む中、これからの社会を生きる子どもたちにとっては、異なる言語や文化を理解したり、他者と積極的にコミュニケーションを図ったりすることが重要になってきている。

平成23年度から完全実施となった小学校における外国語活動は、中学校における外国語科への円滑な移行を目指して、より一層の充実を図っていかなければならない。そのため大竹市・廿日市市小学校長会では、研究の視点を次の2点に焦点化した。

① リキュラムマネジメントの推進により外国語活動の充実を図るうえでの校長の役割

② 小中連携の推進により外国語活動を充実させるための校長の役割

本校長会は、アンケート分析等による現状分析で課題把握を行い、マネジメントサイクルについての理論研修を進めながら、校長としての役割を明確にすべく研究を進めた。義務教育9年間を見据えたカリキュラム編成や小中連携の在り方について具体的な実践事例を交え提案発表する。

【研究の視点②】 新たな情報機器を活用し、学習効果を高める教育活動の推進

兵庫県 神戸市立岩岡小学校 上野 伸一

＜発表概要＞

神戸市では、平成20年度より、教育に資するためのICT環境の実現のため、神戸市情報教育基盤サービス(KIIF)を構築、データセンター内に各種サーバを設置し、安全にインターネットに接続する仕組みの他、グループウェアやメール、教材/校務データベースやSNS、CMSといったサービスを運用している。

また、教職員全員が神戸市小学校研究会(教科・教科外21の部会)に所属し、各研究部において研鑽をつむ活動を行っている。中でも100名近くの研究員が視聴覚研究部に所属し、情報メディア放送・映像メディア・視聴覚機器活用に関する研究を行っている。

様々な政策・環境・研究組織で培ってきたノウハウを実際に各学校で広め、教育の情報化を推進するにはどのような働きかけが必要なのか、校長として、視聴覚部部長としての取り組みを報告する。

分科会・分散会の概要 13

特別分科会 第2分散会 教育課題Ⅱ

【研究課題】 社会的な自立を目指し、将来を切り拓く力を育む学校づくり

【研究の視点①】 一人一人の発達や実態に応じた特別支援教育の推進

<研究発表> 保護者・地域・関係機関との連携を図る特別支援教育

ー就学相談・市内特別支援学級合同行事の充実をととしてー

愛知県 知立市立知立小学校 村瀬 俊一

<発表概要>

特別支援教育を推進していくには、特別支援学級の担任や通級指導教室の担当者だけで指導に当たるのではなく、すべての教師の理解と協力が必要である。そのためには、校長がリーダーシップを発揮し、校内体制を整え、保護者・地域・関係機関との連携を図っていかなければならない。

- ① 本人・保護者の思いを大切にした就学相談の充実
 - ・ 幼・保・市教委と連携して進める就学相談（就学前）
 - ・ 関係機関や専門家と連携して進める就学相談（就学後）
- ② 市内特別支援学級合同行事の充実
 - ・ 合同宿泊学習「山の学習」
 - ・ 知立市小中学校作品展
 - ・ もちつき会・おたのしみ会
 - ・ 合同学習発表会

【研究の視点②】 ふるさとを生きし社会性や自立心を育むキャリア教育の推進

<研究発表> 京都の良さを生かしたキャリア教育推進に向けての学校づくり

～全ての教育活動を通して、基礎的・汎用的能力を育成できる学校に～

京都府 京都市立梅小路小学校 稲葉 弘和

<発表概要>

キャリア教育において「小学校では、社会生活の中で自らの役割や、働くこと、夢を持つことの大切さの理解、興味・関心の幅の拡大、自己及び他者への積極的関心の形成等、社会性、自主性・自律性、関心・意欲等を養うことが重要である。」とされている。学校長として、京都市の取組や地域の良さを生かしながら、本校教員の意識改革、校内組織の充実、地域、行政、教育委員会との連携など、キャリア教育推進に向けての学校づくりを報告する。

- ① 梅小路小学校の地域
- ② 京都市の小学生職業体験学習や野外活動施設の活用
- ③ 京都市の教育情報化
- ④ 本校の校内研究
- ⑤ 学校長としての役割